

1.日 時 令和6年2月24日(土), 25日(日)

2.会 場 2月24日(土): 東京農業大学オホーツク臨海研究センター・能取湖
2月25日(日): 東京農業大学北海道オホーツクキャンパス・網走湖

3.講 師 2月24日(土): 東京農業大学生物産業学部海洋水産学科 西野 康人 教授
東京農業大学生物産業学部海洋水産学科 中川 至純 教授
2月25日(日): 東京農業大学生物産業学部北方圏農学科 白木 彩子 准教授

4.時 程

2月24日(土)

10:30～11:30	任意参加・実習「クリオネ探し」※網走近郊
13:30	集合・受付（東京農業大学オホーツク臨海研究センター）
13:30～13:50	ガイダンス「氷上採集の注意説明・準備」※学生実験室
13:50～14:40	実習「氷上採集」※ 能取湖
14:40～15:30	講義「センターの紹介」「氷海生態系の特徴」※学生実験室
15:30～16:30	実習「採取試料の検鏡等」※ 学生実験室
16:30～17:00	実習「オホーツク臨海研究センター見学」

2月25日(日)

9:00	集合・受付（東京農業大学オホーツクキャンパス 11号館）
9:00～9:50	ガイダンス「北海道の海ワシ類・フィールドワークの主旨説明」※11-101 教室
10:20～11:15	実習「海ワシ類と氷下待網漁と越冬する海ワシ類の観察」※網走湖
11:15～12:15	研究協議「冬のフィールドをテーマにした授業作り」※11-101 教室
12:15	解散

5.記 録

2月24日(土) 参加者：11名

・ クリオネ探し

午前中、任意参加でクリオネ探しを実施した。例年クリオネが観察される、網走駅近郊の海岸数地点を調査した。参加者はウェーダーを着用し、膝丈まで海に入ってクリオネを目視で探索したが、今回は残念ながら見つけれなかった。現れるかどうかは当日の海流次第であり、今回は流氷の接岸もなく条件が悪かったと思われる。しかし、岸に残った流氷に触れながら、観察スポットや採集の仕方を知ることができ、大変有意義であった。



捕獲結果は残念だったが、流氷残る壮大なオホーツク海の景色は圧巻の一言！！

- ・ 東京農業大学オホーツク臨海研究センター・能取湖での研修

午後は東京農業大学オホーツク臨海研究センターにおいて、厳冬期の氷海生態系について研修した。ガイダンスの後、センターに隣接する能取湖で東京農業大学の西野先生、中川先生の指導のもと氷上採集を行った。歩いて凍った湖面の中心付近まで行き、参加者自らが掘削して氷柱サンプルを採集した。氷柱の下部に藻類が増殖して茶褐色に色づく「アイスアルジー」をはっきり視認することができた際は、参加者から一際大きな歓声が上がった。この氷柱サンプルと、湖水からプランクトンネットで採集したプランクトンをセンターに持ち帰り、顕微鏡で観察した。湖水中にはミジンコなどの多数のプランクトン、氷中にはアイスアルジーを形成する様々な藻類が存在することを確認し、冬期でも水中はもちろんのこと氷中でも生物が活発に活動していることを実感することができた。講義では、オホーツク海の豊かな氷海生態系について解説していただいた。センター見学では、センター内で飼育している魚や貝を実際に見ながら、大学での研究と地域産業とのつながりについて教えていただいた。北国ならではの氷海下における生物の営みは、北海道で学ぶ高校生にも授業でぜひ伝えたいものばかりであった。



講義では、アイスアルジーなどオホーツク海ならではの話題をレクチャー



湖面が凍った能取湖の上を徒歩で進み
サンプル採取へ



南極調査と同じ道具を用いての
氷柱サンプル採集は思った以上にハード！



採集した氷柱サンプル
キレイなサンプルが得られて皆大満足



アイスアルジーを構成する藻類

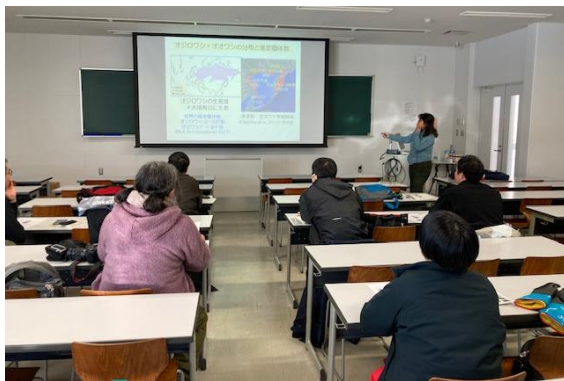


センターで飼育・研究している生物の解説

2月25日(日) 参加者：9名

- ・ 東京農業大学北海道オホーツクキャンパス・網走湖での研修

2日目は、北海道・オホーツクの海ワシ類について、東京農業大学・白木先生のレクチャーのもと研修した。まず講義室において、海ワシ類の生態と最新の研究について解説していただいた。調査個体のGPSを用いた位置把握など、様々なテクノロジーを用いて解明された、北海道に渡ってくる海ワシ類の移動経路や生態を知ることができた。また、厳冬期にオホーツク地域にいる海ワシ類が得ているエサの大半が、漁業活動による雑魚の投棄や観光からの給餌など、人間活動に由来する餌に依存している、というお話は非常に興味深かった。講義の後、網走湖畔の呼人漁港に移動して、氷下漁に集まる海ワシ類等の鳥類を観察した。漁が終わりに近づくにつれて、もうすぐ雑魚が投棄されることを知っている鳥たちが大挙して漁港に集まる様は、まさに「人間活動と自然のつながり」を実感させるものであった。



北海道の海ワシ類について白木先生から講義



呼人漁港にて、漁後に投棄された雑魚に一斉に群がる鳥たちの姿に、人と自然のつながりを実感



雄大にはばたくオジロワシを間近で観察！
漁に合わせて、多くの鳥たちが集合していた